

タイトル「**2023年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1726		
科目名	日本語VI		
担当教員	危機 太郎		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 2		
講義室	国際交流センター	単位区分	必,選必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	語学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D〔市民的素養と市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観、動機を動員することができる。 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、日本の精神文化を理解し異文化との交流の重要性を認識することができる。 DP4-1〔表現力・分析力〕文章表現を扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析を円滑に行うことができる。 DP6-k〔表現力・対話力、ライティングコミュニケーション、オーラルコミュニケーション〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A1 文化的自己意識、文化的多様性への理解（10%） A2 異文化適応、言語的コミュニケーション（10%） D1 文化的素養、知識の獲得、市民参加のためのコミュニケーション、市民的行動と省察と参加（40%） I1 内容理解、文理構造の分析、解釈、読者の声（15%） I2 表現、コミュニケーション（5%） K1 ライティング・コミュニケーション、目的及び文脈の理解、構成、内容の展開（10%） K2 オーラル・コミュニケーション、内容の構造化、言葉選び、話しの運び（10%）		
教員の実務経験	なし		

成績ターゲット区分	2進行期～3発展期							
科目概要・キーワード	日本語で映像や記事の内容を正確に把握する力を養うことを目標とします。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピデンスに基づき効果的な授業方法として、または各授業を補完・代替するためのオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) コミュニケーション力、日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢							
授業の趣旨	■副題 授業を理解し、日常生活を送るのに不都合のない日本語力、表現力を身につけます。 ■授業の目的身 市民生活を送るうえで必要なかつや大学生活に欠かせない表現力、対話力を修得し、他者理解能力などを身につけます。 ■授業のポイント 中級前半レベルの日本語力を身に付け、日本の精神文化を理解し、学んだ日本語を使って、日常生活や大学生活において基本的なコミュニケーションが出来るようになることを目的とします。							
総合到達目標	グローバルパーソンとしてコミュニケーションできる中級レベルの日本語能力を高めるために、日本語の中級レベルの知識を習得する。また、文章及び口頭で自らの考えを的確に表現し、様々な場面で具体的なコミュニケーションができるように修得する。 ・日本語の音韻規則や個別発音などを注意しながら文章の中で正確に発音することができる。(第2回～14回) ・短文、そして複文や重文を正確に作ることができる。(第2回～14回) ・間接話法、友達同士で使う表現、敬語などを区別しながら話すことができる。(第2回～14回) ・日常生活で使う会話が自由に話せるようになり、日常生活の様々な問題なども解決できる。(第2回～14回) ・日本語の習得と同時に日本の文化や社会について理解できる。(第2回～14回)							
成績評価方法	■授業参加度（40%）：適用ルーブリックA2・I1・I2K1・K2 (評価の観点) 演習形式なので、日本語で正確に話し、聞き、書く力を評価とします。 ■実技・パフォーマンス（30%）：適用ルーブリックA1・D2・K1・K2 (評価の観点) 漢字、ひらがな、カタカナを的確に使用する日本語表現力や文化の理解度をもって評価とします。 ■ミニ・テスト2回（30%）：適用ルーブリックD1・I1・K1・K2 (評価の観点) 学修した内容を理解し、日本語の読む力・書く力、発音なども正しくできているか、また日本文化と自国の文化の理解がなされているかをもって評価とします。 (フィードバックの方法) テスト終了後、模範解答を示し、もう一度発話練習を繰り返し、ペーパーに書く練習をします。							
履修条件	『日本語Ⅳ』を履修した外国人留学生							
履修上の注意点	語学は反復練習が不可欠なので、毎日学習しましょう。							
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ ガイダンス。 ②授業概要 本授業の内容、目標、注意点、成績評価などの説明したあとに、自己紹介を2分間日本語で行う。I2、K2 ③予習（60分） あいさつと自己紹介の2分間スピーチ、オーラル表現を練習しておく。 ④復習（60分） 『日本語Ⅳ』に関する授業の内容、目的、到達目標を確認し、自己紹介文を文章にして書く。</td></tr><tr><td>2</td><td>①授業テーマ 第16課 可能表現</td></tr></table>		回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス。 ②授業概要 本授業の内容、目標、注意点、成績評価などの説明したあとに、自己紹介を2分間日本語で行う。I2、K2 ③予習（60分） あいさつと自己紹介の2分間スピーチ、オーラル表現を練習しておく。 ④復習（60分） 『日本語Ⅳ』に関する授業の内容、目的、到達目標を確認し、自己紹介文を文章にして書く。	2	①授業テーマ 第16課 可能表現
回	内容							
1	①授業テーマ ガイダンス。 ②授業概要 本授業の内容、目標、注意点、成績評価などの説明したあとに、自己紹介を2分間日本語で行う。I2、K2 ③予習（60分） あいさつと自己紹介の2分間スピーチ、オーラル表現を練習しておく。 ④復習（60分） 『日本語Ⅳ』に関する授業の内容、目的、到達目標を確認し、自己紹介文を文章にして書く。							
2	①授業テーマ 第16課 可能表現							

	②授業概要 自分の日常生活や能力においてできることについて表現し、関連するニュースなどを理解できるようにする(A1、D1、I2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
3	①授業テーマ 第16課 可能表現2 ②授業概要 状況、状態の可能性について表現し、関連するニュースなどを理解できるようにする。(A1、D1、I2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
4	①授業テーマ 第17課 授受表現 ②授業概要 授受動詞の方向と関係を表し、関連する映像情報が理解できるようにする。(A1、D1、I2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
5	①授業テーマ 第17課 授受表現2 ②授業概要 て形＋授受動詞を使って身近な出来事表現し、関連するニュースなどの記事が理解できるようにする。(A1、D1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
6	①授業テーマ 第18課 目的と計画の表現 ②授業概要 目的と計画を表す言い方を使って自分の目標や計画について表現し、関連する新聞記事などが理解できるようにする。(A1、D1、I2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
7	①授業テーマ 第19課 伝聞表現

	授業概要 情報を人に伝える表現が使えるようにし、ニュースの内容が正確に理解できるようにする。(A1、D1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型をできるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
8	①授業テーマ 第19課 伝聞表現 2 ②授業概要 伝聞表現の書き言葉と話し言葉の使い分けを表現できるようにし、場合に応じて使えるようにする(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型をできるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
9	①授業テーマ 第20課 受け身表現 ②授業概要 受身動詞の文法規則を理解し、それを使って日常や社会の出来事について表現できるようにする。(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型をできるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
10	①授業テーマ 『日本語Ⅶ』中間総括・到達度確認・リアクションペーパー講評 ②授業概要 今まで授業で学んだことを授業内中間テスト、あるいはリアクションペーパーを通じて把握する(A1、D1、K1、K2)。 ③予習（60分） 今まで授業で学んだことを復習する。 ④復習（60分） 授業内中間テストで理解しきれていなかった部分を再確認する。
11	①授業テーマ 第21課 使役表現 ②授業概要 使役動詞の文法規則を理解し、それを使って日常や社会の出来事について表現できるようにする(A1、K1、K2 I2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 第9回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型をできるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。

	12	①授業テーマ 第22課 使役受け身表現 ②授業概要 使役受け身文を使い、日常や社会の出来事についての表現できるようにする。(A1、K1、K2、I2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
	13	①授業テーマ 第23課 比喻表現 ②授業概要 比喻表現を使い、物事や概念について表現し、関連する映像情報や報道記事が理解できるようにする。(A1、K1、K2、I2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
	14	①授業テーマ 第24課 受け身表現2 ②授業概要 受け身動詞を使い、国の地理、歴史、言語について表現できるようにする。(A1、K1、K2)。なお、授業の一部を補完するため、社会見学などの校外学習を取り入れる場合がある。 ③予習（60分） 前回の授業で学んだことを復習するとともに、授業に参加する前に必ず本文を一度読み、新しい単語の意味を調べる。 ④復習（60分） 授業で学んだ表現・文型を使えるように練習をし、理解が不十分な箇所を復習する。
	15	①授業テーマ 『日本語Ⅶ』授業総括・到達度確認 ②授業概要 今までの授業を振り返り、必要に応じて補足説明を行う。スポーツに関する映像ニュースを見て、質問に対する自分の意見を日本語Ⅶで学んだ表現を使い800字以上でまとめる。(A1、D1、I2)
関連科目	日本語Ⅴ（RMGT/SSCS 1725）	
教科書	『テーマ別中級までに学ぶ初中級ブリッジ教材』研究社 『日本語を学ぶ人のためのアカデミックライティング講座』アスク	
参考書・参考URL	『気持ち伝わる日本語会話表現180』Jリサーチ出版	
連絡先・オフィスアワー	開講時お知らせします。	
研究比率		

